

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成27年7月24日

**【事業年度】** 第55期(自平成26年5月1日至平成27年4月30日)

**【会社名】** 佐藤食品工業株式会社

**【英訳名】** SATO FOODS CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 佐藤 元

**【本店の所在の場所】** 新潟県新潟市東区宝町13番5号

**【電話番号】** (025)275-1100

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理本部長兼経理部長 近藤 充

**【最寄りの連絡場所】** 新潟県新潟市東区宝町13番5号

**【電話番号】** (025)275-1100

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理本部長兼経理部長 近藤 充

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
決算年月	平成23年4月	平成24年4月	平成25年4月	平成26年4月	平成27年4月
売上高 (千円)					33,551,275
経常利益 (千円)					1,110,733
当期純利益 (千円)					119,618
包括利益 (千円)					378,319
純資産額 (千円)					10,039,677
総資産額 (千円)					28,500,405
1株当たり純資産額 (円)					2,089.71
1株当たり 当期純利益金額 (円)					24.90
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)					35.2
自己資本利益率 (%)					1.1
株価収益率 (倍)					115.23
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)					4,685,961
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)					3,545,109
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)					1,060,923
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)					180,513
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	( )	( )	( )	( )	566 (664)

- (注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。  
 2 第55期より連結財務諸表を作成しているため、第54期以前については記載しておりません。  
 3 従業員数は、就業人員を記載しております。  
 4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次		第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
決算年月		平成23年 4月	平成24年 4月	平成25年 4月	平成26年 4月	平成27年 4月
売上高	(千円)	27,055,994	26,536,173	26,744,063	27,934,478	28,148,370
経常利益	(千円)	1,106,358	1,021,147	450,037	589,163	940,818
当期純利益	(千円)	465,599	22,132	179,098	259,399	25,440
資本金	(千円)	543,775	543,775	543,775	543,775	543,775
発行済株式総数	(株)	5,075,500	5,075,500	5,075,500	5,075,500	5,075,500
純資産額	(千円)	9,439,194	9,441,753	9,666,186	9,856,037	10,101,017
総資産額	(千円)	25,463,711	21,773,872	23,921,558	27,258,103	27,531,764
1株当たり純資産額	(円)	1,964.62	1,965.17	2,011.91	2,051.48	2,102.48
1株当たり配当額 (内1株当たり 中間配当額)	(円)	15 (0)	12 (0)	12 (0)	12 (0)	22 (0)
1株当たり 当期純利益金額	(円)	96.91	4.61	37.28	53.99	5.30
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額	(円)					
自己資本比率	(%)	37.1	43.4	40.4	36.2	36.7
自己資本利益率	(%)	5.0	0.2	1.9	2.7	0.3
株価収益率	(倍)	16.7	362.5	55.8	43.8	541.8
配当性向	(%)	15.5	260.5	32.2	22.2	415.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	896,161	5,410,106	1,225,035	1,694,101	
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	303,116	459,191	1,757,194	1,595,864	
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,496,989	4,987,179	2,741,673	3,348,992	
現金及び現金同等物 の期末残高	(千円)	318,379	282,115	41,559	100,585	
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数)	(名)	385 (589)	392 (596)	391 (582)	400 (573)	396 (576)

- (注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。  
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため、記載しておりません。  
3 第52期及び第55期における当期純利益の大幅な減少は、訴訟関連損失8億69百万円及び8億96百万円をそれぞれ特別損失に計上したことによるものであります。  
4 第51期の1株当たり配当額には、東京証券取引所市場第二部上場10周年記念配当額5円を含んでおります。  
5 第55期の1株当たり配当額には、創業65周年記念配当額10円を含んでおります。  
6 従業員数は、就業人員(当社から社外への出向者を除く)を記載しております。  
7 第55期は連結財務諸表を作成しておりますので、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー、現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。

## 2 【沿革】

当社は、昭和25年4月新潟市において、創業者佐藤勲作が白玉粉の製造販売を目的とする佐藤勲作商店として創業いたしました。

その後、昭和33年11月に包装餅事業へ進出し、昭和36年4月に有限会社佐藤食品工業所に法人化、昭和41年10月株式会社佐藤食品工業所へ改組、昭和55年4月佐藤食品工業株式会社へ商号変更し現在に至っております。

有限会社佐藤食品工業所設立以後の当社に係る沿革は、次のとおりであります。

年月	概要
昭和36年4月	創業者佐藤勲作が、資本金50万円をもって有限会社佐藤食品工業所を設立
昭和36年10月	新潟県新潟市に新潟工場を設立し、本社を移転
昭和41年10月	株式会社佐藤食品工業所に改組
昭和50年5月	株式会社こぶし食品工業を吸収合併、当社こぶし工場(現北海道工場)とする
昭和50年6月	新潟県新潟市にフジミショッピングセンターを出店し小売事業に進出
昭和52年10月	佐賀県杵島郡に佐賀工場を新設
昭和54年9月	新潟県新発田市に新発田工場を新設
昭和55年4月	創業30周年を記念し、商号を佐藤食品工業株式会社に変更
昭和58年10月	新発田工場において無菌化個包装切り餅の製造を開始
昭和63年4月	新潟工場において無菌化包装米飯の製造を開始し、包装米飯事業に進出
平成2年7月	新潟県北蒲原郡に無菌化包装米飯専用工場、東港工場を新設
平成10年2月	株式会社パワーズフジミを設立し、同年5月に小売事業の営業を同社に譲渡
平成10年5月	有限会社フジミプランニングに遊技場事業の営業を譲渡
平成11年9月	北海道工場において無菌化包装米飯の専用工場を増設
平成13年4月	東京証券取引所市場第二部に上場
平成18年5月	新潟工場を閉鎖
平成19年12月	株式会社パワーズフジミの全株式を譲渡し、小売事業より撤退
平成20年9月	北海道米飯工場がISO22000:2005を認証取得
平成21年9月	東港工場がISO22000:2005を認証取得
平成26年8月	宝町食品株式会社を設立、同年9月に株式会社きむら食品から食品事業を譲受け、現連結子会社株式会社きむら食品に商号を変更

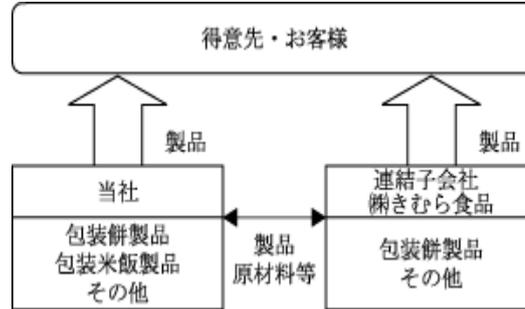
### 3 【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社(佐藤食品工業株式会社)、連結子会社(株式会社きむら食品)の2社により構成されており、国内での包装餅及び包装米飯等の製造販売を主な事業としております。当社グループの事業における位置付けは次のとおりであります。

#### 食品事業

佐藤食品工業株式会社(当社) 包装餅製品、包装米飯製品等の製造販売を行っております。  
 株式会社きむら食品(連結子会社) 包装餅製品等の製造販売を行っております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社きむら食品	新潟県燕市	50,000	食品事業	100.0	資金の貸付及び借入、原材料等の 売却、同社の銀行借入金に対する 債務保証 役員の兼任あり

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. 株式会社きむら食品については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	5,414,960千円
	経常利益	176,484 "
	当期純利益	100,749 "
	純資産額	1,300,749 "
	総資産額	2,502,140 "

## 5 【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

平成27年4月30日現在

事業部門の名称	従業員数(名)
販売部門	107( 3)
製造部門	384(652)
管理部門及び研究開発部門	75( 9)
合計	566(664)

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。また、従業員数の(外書)は、臨時従業員等の年間平均雇用人数であります。
- 2 臨時従業員には、季節工、パートタイマー及び再雇用契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。
- 3 当社グループは、単一セグメントであるため、事業部門別の従業員数を記載しております。

## (2) 提出会社の状況

平成27年4月30日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
396 (576)	39.9	15.1	6,010,765

事業部門の名称	従業員数(名)
販売部門	67 ( 1)
製造部門	266 (569)
管理部門及び研究開発部門	63 ( 6)
合計	396 (576)

- (注) 1 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除く)であります。また、従業員数の(外書)は、臨時従業員等の年間平均雇用人数であります。
- 2 臨時従業員には、季節工、パートタイマー及び再雇用契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。
- 3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

## (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

当社グループは、当連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、前連結会計年度との対比の記載はしていません。

なお、「2 [生産、受注及び販売の状況]」、「7 [財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析]」についても同様であります。

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策を背景とした、緩やかな回復基調で推移したものの、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動や、円安による物価上昇の影響が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社グループを取り巻く市場環境も、高額商品などの一部に消費拡大の兆しが見られたものの、消費者の節約志向による価格競争の継続に加え、エネルギー等のコスト上昇もあり、厳しい状況で推移いたしました。

このような中、当社グループは、安全・安心かつ美味しさの追求に重点をおいた包装餅及び包装米飯の適正価格での健全な販売及び製品の安定供給に努めることを基本に、お客様の消費動向を捉えながら多様化する消費者ニーズに対応した販売活動を行ってまいりました。

当社グループは、食品事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しておりますが、製品分類別における販売の動向は以下のとおりであります。

包装餅製品では、少子高齢化等の社会構造の変化による食スタイルの多様化・個別化等に対応する製品として、一昨年発売した「サトウの切り餅 いっぼん」「サトウの切り餅 至高の餅」に酸素吸収透明フィルム(フィルム自体に袋内の酸素を吸う機能があり、鮮度保持剤が不要となるエコ包装を実現した個包装フィルム)を使用し、平成26年10月よりリニューアル発売するとともに、鏡餅のPSP容器(発泡スチロールを素材とした容器)「らくпой容器」を採用した製品ラインナップの増強に加え、新潟在住のアイドル・ユニット「Negicco(ネギッコ)」を起用した新しいテレビCMの放映を実施いたしました。さらに、当社グループ企業である株式会社きむら食品が持つ、バイオニアブランドとしての「うさぎもち」の取扱店拡大に向けた、販売促進企画等の各施策の実施に取り組んでまいりました。その結果、包装餅製品の売上高は179億15百万円となりました。

包装米飯製品では、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動は見られたものの、日本古来の炊飯方法を忠実に再現した製造技術(圧釜ガス直火炊き)により、電子レンジ2分で家庭と同様の炊きたてごはんを実現できること、製品名に原料米の産地銘柄を明確に表示していることが、お客様の利便性及び安全・安心意識にそれぞれマッチしたことに加え、「Negicco(ネギッコ)」を起用した新しいテレビCMの訴求効果等もあり、堅調に推移いたしました。その結果、包装米飯製品の売上高は155億82百万円となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高はその他52百万円を加えた335億51百万円となりました。

利益面につきましては、営業利益は11億70百万円、経常利益11億10百万円となりましたが、訴訟関連損失8億96百万円を特別損失に計上した結果、当期純利益は1億19百万円となりました。

#### (2) キャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は46億85百万円となりました。これは、減価償却費11億43百万円、たな卸資産の減少28億55百万円が主なものとなっております。

なお、たな卸資産の減少は原料米の仕入調整によるものとなっております。

投資活動の結果支出した資金は35億45百万円となりました。これは、有形固定資産の取得による支出19億69百万円、事業譲受による支出17億15百万円が主なものとなっております。

財務活動の結果支出した資金は10億60百万円となりました。これは、長期借入れにより44億円の資金を調達しましたが、短期借入金の返済42億50百万円及び長期借入金の返済による支出16億15百万円によるものが主なものとなっております。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は1億80百万円となりました。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績を製品分類ごとに示すと、次のとおりであります。

製品分類	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
包装餅製品	17,472,515	
包装米飯製品	15,427,982	
その他製品	22,552	
合計	32,923,050	

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。  
 2 金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 製品仕入実績

当連結会計年度の製品仕入実績を製品分類ごとに示すと、次のとおりであります。

製品分類	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
包装餅製品	647,880	
その他製品	36,957	
合計	684,837	

- (注) 1 金額は、実際仕入金額によっております。  
 2 金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 商品仕入実績

該当事項はありません。

### (4) 受注実績

受注見込による生産方式をとっておりますので、受注高ならびに受注残高について記載すべき事項はありません。

### (5) 販売実績

当連結会計年度の販売実績を製品分類ごとに示すと、次のとおりであります。

製品分類	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
包装餅製品	17,915,548	
包装米飯製品	15,582,916	
その他製品	52,810	
合計	33,551,275	

- (注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)	
	販売実績(千円)	割合(%)
加藤産業(株)	7,877,479	23.5
三菱食品(株)	7,861,057	23.4
伊藤忠商事(株)	6,145,331	18.3
三井物産(株)	5,156,226	15.4

- 2 金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3 【対処すべき課題】

消費者の食品に対する安心・安全性への関心の高まりや、少子高齢化等の社会構造の変化により、食生活のスタイルは一層多様化・個別化するものと予想されます。

このような状況の中で、季節的変動を極小化すべく包装米飯事業に注力するとともに、包装餅事業におけるトップブランドとしての「サトウの切り餅」及びパイオニアブランドとしての「うさぎもち」の確固たる基盤を築くべく消費者の皆様に喜ばれる製品づくりを目指し、基礎技術に基づく、他社と差別化できる競争力のある新製品の開発に努めるとともに、経営全般にわたる効率化を推進し業績の拡大に取り組んでまいります。

### 4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の概況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成27年7月24日)現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 業績の季節的変動

当社グループは、主力製品である包装餅が季節商品(特に鏡餅)であり、その販売が年末に集中するため、売上高及び営業利益は第3四半期連結会計期間の割合が高くなる傾向があります。

なお、当連結会計年度末にいたる1年間の売上高・営業費用及び営業利益又は営業損失は、以下のとおりであります。

当社グループの業績

	売上高		営業費用		営業利益又は 営業損失( )
	金額(千円)	百分比(%)	金額(千円)	百分比(%)	金額(千円)
当事業年度の第1四半期会計期間	3,757,962	11.2	4,078,248	12.6	320,285
当連結会計年度の第2四半期連結会計期間	6,693,419	19.9	6,763,447	20.9	70,028
当連結会計年度の第3四半期連結会計期間	17,007,436	50.7	15,407,180	47.6	1,600,256
当連結会計年度の第4四半期連結会計期間	6,092,457	18.2	6,131,468	18.9	39,011
合計	33,551,275	100.0	32,380,344	100.0	1,170,931

(注) 第2四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しております。

#### (2) 製品の安全性について

当社グループは、製品の品質及び安全・安心に対する取り組みを経営の最重要課題のひとつと考え取り組んでおり、ISO22000:2005を運用するとともに、各製造工程における社内基準検査、製品1個々々検品体制の確立、トレーサビリティシステムを取り入れた包装米飯の開発に加え、DNA分析装置やシンチレーションサーベイメータ(放射性物質測定器)などの自社分析機器等の導入及び品質管理体制の強化に努めております。

しかしながら、病原性ウイルスの発生及び野菜の残留農薬や放射能汚染等の食品業界全体を脅かすような問題が発生し、当社グループの想定及び会社としての対応を超えた事態が発生した場合は、経営成績に影響を与える可能性があります。

#### (3) 原料米の価格変動について

当社グループは、包装餅や包装米飯の素材となる原料米(もち米、うるち米)を仕入れておりますが、当社グループの仕入価格は国内の市場動向(作況等)の影響を受けるため、過去の米不作時の経験を生かし仕入価格の変動を極力抑えるよう適切な情報収集及び在庫管理などの対応を行っております。

しかし、原料米は全て国内産米であり、当社グループが予想した範囲を上回るような原料米の市場動向となった場合、経営成績に影響を与える可能性があります。

また、包装資材などの原材料は、原油価格及び為替等の変動によって調達価格は変動し、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

当社は、平成26年8月4日開催の取締役会において、民事再生手続中の株式会社きむら食品(以下「きむら食品」という。)とスポンサー契約を締結することを決議し、同日同社とスポンサー契約を締結いたしました。

さらに、平成26年8月20日開催の取締役会において、当社100%出資により設立した子会社 宝町食品株式会社を譲受会社として、きむら食品が営む食品事業を譲受けることを決議し、同日同社と事業譲渡契約を締結いたしました。

なお、当該事業譲受の詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表 (1) 連結財務諸表」の「注記事項(企業結合等関係)」に記載のとおりであります。

## 6 【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、当社生産本部開発部及び関係会社の開発部門を中心に、包装餅及び包装米飯等の新製品開発や、基礎研究、新規技術開発、新規生産ラインの開発、既存製品の安全性・生産効率の向上を目的とした技術開発を基本として活動しております。

当連結会計年度の活動の成果といたしましては、包装餅では、酸素吸収透明フィルムによる新包装技術を確立、この技術を「サトウの切り餅 至高の餅」ならびに「サトウの切り餅いっぽん」に採用し、2商品のリニューアルしました。さらに、鏡餅においては、ちぎって小さくまとめて捨てることのできる「らくポイ容器」のサイズの多様化に取り組み、「小飾り鏡餅」に加え「サツと鏡餅」も「らくポイ容器」のラインナップに加えました。また、既存生産ラインの整備、改修、改良により生産性の向上、生産ロスの削減をすすめ、収益改善に努めてまいりました。

包装米飯においては、既存生産ラインにおける製造技術、微生物制御技術、品質管理技術の検証及び改良に努め、生産性の向上、生産ロスの削減を推し進めてまいりました。

また、包装餅、包装米飯共通の活動として異物混入防止体制の強化を推進し、食品安全、フードディフェンスの一層の増強を図るとともに、関係会社との品質管理に係る情報の共有化により、管理の統一化に取り組みました。

基礎研究といたしましては、微生物の挙動や殺菌・制御に係る研究や食品の安全性に係る研究、各種新形質米の利用研究、米飯及び餅の食味や物性解析に係る研究等を実施するとともに、産官学における共同研究に加わり、新潟大学医学部内に設置された寄附講座「病態栄養学講座」にて「慢性腎臓病患者における治療用特殊食品(低たんぱく質米)の使用がたんぱく質摂取量に与える効果に関する研究」を行っております。また、米飯・餅の新しいメニュー、調理方法とそれに適した米飯・餅の応用研究も継続実施いたしました。

なお、当連結会計年度における研究開発費の金額は1億75百万円であります。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末日現在において当社が判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たり、必要と思われる見積りは、合理的な基準に基づいて実施しております。

なお、詳細につきましては、「第5 [経理の状況] 1 [連結財務諸表等] (1) [連結財務諸表] [注記事項] (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載しております。

### (2) 財政状態

#### 資産・負債及び純資産の分析

##### (資産)

当連結会計年度末における総資産は、285億円となりました。

流動資産合計156億40百万円の主な内訳は、現金及び預金19億43百万円、受取手形及び売掛金51億74百万円、商品及び製品20億2百万円並びに原材料及び貯蔵品57億71百万円であります。

固定資産合計128億46百万円の主な内訳は、建物及び構築物25億73百万円、機械装置及び運搬具33億67百万円、土地23億47百万円、投資有価証券10億42百万円並びに投資不動産26億31百万円であります。

##### (負債)

当連結会計年度末における負債は、184億60百万円となりました。

流動負債合計103億34百万円の主な内訳は、支払手形及び買掛金7億46百万円、短期借入金49億円、1年内返済予定の長期借入金16億87百万円並びに未払金15億3百万円であります。

固定負債合計81億25百万円の主な内訳は、社債8億66百万円、長期借入金55億76百万円並びに退職給付に係る負債9億23百万円であります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は、100億39百万円となりました。

主な内訳は、利益剰余金89億39百万円であります。

キャッシュ・フローの分析

当社のキャッシュ・フローの状況は、営業活動により得られた資金を、投資活動及び財務活動に支出した結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は1億80百万円となりました。

また、各キャッシュ・フローの詳細につきましては、「1 [業績等の概要] (2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりであります。

(3) 経営成績

(売上高及び営業利益)

当連結会計年度の売上高は、335億51百万円となりました。主な内訳は、包装餅製品が(株)きむら食品を加え179億15百万円となり、包装米飯155億82百万円であります。

なお、売上高の概況につきましては、「1 [業績等の概要] (1) 業績」に記載のとおりであります。

売上総利益率は36.8%となり、売上総利益は123億41百万円となりました。

販売費及び一般管理費は111億70百万円となりました。主な内訳は、販売促進費64億89百万円及び発送費12億22百万円であり、販売費及び一般管理費比率は33.3%となりました。

以上の結果、営業利益は11億70百万円となりました。

(営業外損益及び経常利益)

営業外収益は4億49百万円となりました。主な内訳は、受取賃貸料2億円、受取手数料72百万円、副産物収入61百万円及び電力販売収益53百万円であります。

営業外費用は5億10百万円となりました。主な内訳は、支払利息1億80百万円、賃貸費用1億30百万円及び開業費56百万円であります。

以上の結果、経常利益は11億10百万円であります。

(特別損益及び税金等調整前当期純利益)

特別利益は、固定資産売却益20百万円であります。

特別損失は、訴訟関連損失8億96百万円及び固定資産売却損1百万円であります。

以上の結果、税金等調整前当期純利益は2億33百万円となりました。

(法人税等及び当期純利益)

法人税等合計は、1億13百万円となりました。

以上の結果、当期純利益は1億19百万円となり、1株当たり当期純利益金額は24円90銭となりました。

(4) 経営者の問題認識と今後の方針について

消費者の食品に対する安心・安全意識の高まりや、少子高齢化等の社会構造の変化により、食生活のスタイルは一層多様化・個別化するものと予想されます。

このような状況の中で、包装餅業界及び包装米飯業界におけるトップブランドとしての「サトウの切り餅」及び「サトウのごはん」並びに包装餅業界におけるパイオニアブランドとしての「うさぎもち」の確固たる基盤を築くべく、消費者の皆様にご喜ばれる製品作りを目指し、基礎技術に基づく他社と差別化できる競争力のある新製品の開発に取り組んでまいります。

また、商品別・業態別の販売促進を強化するとともに、包装餅及び包装米飯の需要創造を目指したキャンペーンやプロモーション活動等による製品販売の拡大に努め、トップシェア企業としての安全・安心な製品を安定的にお客様に供給するべく、全社一丸となって更なる商品力及びブランド力の強化に取り組むとともに、経営全般にわたる効率化を推進し、業績の向上に取り組んでまいります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資の総額は18億46百万円で、その主な内容は、サトウ食品東京ビル（東京都大田区）の取得11億75百万円、包装餅及び包装米飯設備の更新・改修等によるものとなっております。

#### 2 【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

平成27年4月30日現在

事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
		建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
本社 (新潟市東区)	管理業務及び研究開発施設	45,775	10,589	68,760 (5,881) <1,076>	1,163	34,385	160,674	63 [ 6 ]
北海道工場 (北海道岩見沢市)	包装餅及び包装米飯製造設備	521,072	448,354	284,214 (33,726)	237,100	3,458	1,494,199	62 [ 96 ]
佐賀工場 (佐賀県杵島郡)	包装餅製造及び太陽光発電設備	308,857	392,277	60,915 (33,509)	123,500	5,835	891,386	40 [ 186 ]
新発田工場 (新潟県新発田市)	包装餅及び包装米飯製造設備	243,855	446,459	105,362 (30,211)		10,986	806,663	41 [ 184 ]
東港工場・東港配送センター (新潟県北蒲原郡)	包装米飯製造及び太陽光発電設備等	943,269	1,874,618	650,982 (53,344)		4,840	3,473,711	123 [ 103 ]
東京支店 (東京都大田区)	販売業務施設	209,670		175,634 (151)	4,940	4,697	394,942	36 [ 1 ]
大阪支店 (大阪府吹田市)	販売業務施設	48	1,940	( )		23	2,012	10 [ ]
名古屋支店 (名古屋市西区)	販売業務施設	297		( )		73	370	4 [ ]
九州支店他 6 営業所 (佐賀県杵島郡他)	販売業務施設			( )				17 [ ]
その他 (新潟市東区他)	社宅等	50,191		764,945 (99,402) <5,083>		408	815,544	
	賃貸用設備	535,360 [535,360]		2,096,058 (30,913) <28,241> {19,022} [2,096,058]			2,631,418	
合計		2,858,397 [535,360]	3,174,239	4,206,874 (287,140) <34,400> {19,022} [2,096,058]	366,703	64,709	10,670,924	396 [ 576 ]

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品及び建設仮勘定であります。  
 建物及び構築物、土地の[ ]書きは、賃貸中のものを内数で表示しており、貸借対照表上、投資その他の資産「投資不動産」に計上しております。  
 土地面積の { } は賃貸中のものであり、内数で表示してあります。  
 土地面積の { } は賃借中のものであり、外数で表示してあります。  
 従業員数の [ ] は臨時従業員等の年間平均雇用人数を外数で表示してあります。
- 2 金額には消費税等を含んでおりません。

## (2) 国内子会社

平成27年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
株式会社 (株)きむら食品	本社 (新潟県燕市)	管理業務及び研究 開発施設	19,508	1,288	11,204 (999)		33,764	65,766	34 [ 6 ]
	本社工場 (新潟県燕市)	包装餅製造設備	230,291	191,703	225,405 (19,347)		28,698	676,099	102 [ 81 ]
	東京支店 (東京都豊島区)	販売業務施設	282		( )		523	805	12 [ ]
	大阪支店 (大阪府吹田市)	販売業務施設			( )		256	256	8 [ ]
	札幌営業所他4 営 業所(札幌市白石 区他)	販売業務施設			( )		247	247	14 [ 1 ]
合計			250,082	192,991	236,610 (20,347)		63,490	743,175	170 [ 88 ]

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品及び建設仮勘定であります。  
従業員数の[ ]は臨時従業員等の年間平均雇用人数を外数で表示してあります。
- 2 金額には消費税等を含んでおりません。

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

設備投資につきましては、今後の生産計画、販売計画及び利益計画などを総合的に勘案して策定しております。  
平成27年4月30日現在における重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,300,000
計	16,300,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成27年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年7月24日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,075,500	5,075,500	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株でありま す。
計	5,075,500	5,075,500		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成13年4月11日(注)	1,000,000	5,075,500	340,000	543,775	506,000	506,000

(注) 有償一般募集(ブックビルディング方式)

発行価格	900円
引受価額	846円
発行価額	680円
資本組入額	340円

#### (6) 【所有者別状況】

平成27年4月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		13	10	49	2		1,147	1,221	
所有株式数 (単元)		2,770	133	13,463	6		34,367	50,739	1,600
所有株式数 の割合(%)		5.45	0.26	26.53	0.01		67.73	100.00	

(注) 自己株式271,164株は、「個人その他」に2,711単元及び「単元未満株式の状況」に64株を含めて記載しております。

## (7) 【大株主の状況】

平成27年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
住吉食品有限会社	新潟市東区宝町13-5-2	531	10.47
佐藤功	新潟市東区	390	7.70
佐藤食品工業社員持株会	新潟市東区宝町13-5	277	5.47
株式会社榎本武平商店	東京都江東区新大橋2丁目5-2	225	4.43
佐藤浩一	新潟市西区	222	4.37
佐藤豊美	新潟市東区	199	3.93
佐藤元	新潟市東区	198	3.90
サトウ食品取引先持株会	新潟市東区宝町13-5	190	3.74
一正蒲鉾株式会社	新潟市東区津島屋7丁目77	158	3.11
藤井順一	新潟県西蒲原郡弥彦村	151	2.98
計		2,544	50.13

(注) 佐藤食品工業(株)が271千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合5.34%)所有しておりますが、自己株式のため表中に記載しておりません。

## (8) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成27年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 271,100		単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,802,800	48,028	同上
単元未満株式	普通株式 1,600		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	5,075,500		
総株主の議決権		48,028	

(注) 「単元未満株式」欄には、自己株式64株を含めております。

## 【自己株式等】

平成27年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 佐藤食品工業株式会社	新潟市東区宝町13番5号	271,100		271,100	5.34
計		271,100		271,100	5.34

## (9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しておりませんので、該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	19	57
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、平成27年7月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	271,164		271,164	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成27年7月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

## 3 【配当政策】

当社は、株主還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけており、今後の事業展開及び経営強化のため内部留保の充実を図りつつ、安定的な配当を維持継続することを基本とし、企業価値の増大で株主各位に伝えることを念頭に置き、総合的に決定することを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当と期末配当の年2回を基本としておりますが、当社主力製品である包装餅が季節商品(特に鏡餅)でありその販売が年末に集中するため、売上高及び営業利益は第3四半期会計期間の割合が高く、第2四半期累計期間は赤字となるため、これまでは期末配当のみ実施し中間配当は行っておりません。

これらの剰余金の配当の決定機関は、中間配当については取締役会、期末配当については株主総会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、平成27年4月に創業65周年を迎えることができましたことから、普通配当12円に記念配当10円を加えた、1株当たり22円とさせていただきます。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成27年7月24日定時株主総会決議	105,695	22.00

#### 4 【株価の推移】

##### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
決算年月	平成23年4月	平成24年4月	平成25年4月	平成26年4月	平成27年4月
最高(円)	2,000	2,030	2,380	2,990	3,190
最低(円)	1,255	1,600	1,611	1,850	2,215

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

##### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年11月	12月	平成27年1月	2月	3月	4月
最高(円)	2,687	2,831	3,030	3,025	3,055	3,020
最低(円)	2,538	2,620	2,750	2,826	2,660	2,820

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性12名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長		佐藤 功	昭和13年 1月13日生	昭和28年 4月 正起商店入社 昭和31年 4月 当社入社 昭和36年 4月 当社監査役就任 昭和41年 7月 当社専務取締役就任 昭和59年 4月 当社代表取締役社長就任 平成10年 2月 (株)パワーズフジミ取締役就任 平成15年10月 新潟国際コンベンションホテル (株)(現 ホテル朱鷺メッセ(株))代 表取締役就任(現任) 平成17年 5月 (株)オリエントプラン取締役副社 長就任 平成22年 7月 当社代表取締役会長就任 平成25年 7月 当社取締役会長就任(現任) 平成26年 8月 宝町食品(株)(現(株)きむら食品)代 表取締役就任 平成26年 9月 (株)きむら食品取締役就任(現任)	(注) 4	390
代表取締役 社長		佐藤 元	昭和40年 2月24日生	昭和62年 4月 亀田製菓(株)入社 平成 2年 4月 当社入社 平成 4年 7月 住吉食品(有)取締役就任(現任) 平成 5年 3月 当社経営企画室長 平成 7年 6月 当社取締役経営企画室長就任 平成10年 2月 (株)パワーズフジミ代表取締役社 長就任 平成11年 6月 (有)フジミプランニング取締役就 任 平成14年 6月 当社常務取締役経営企画室長就 任 平成20年 1月 当社常務取締役営業本部長就任 平成22年 7月 当社代表取締役社長就任(現任) 平成26年 9月 (株)きむら食品取締役就任(現任)	(注) 4	198
常務取締役	営業管掌兼経 営企画本部長	中谷 徹	昭和31年 8月17日生	昭和54年 3月 当社入社 平成 7年 3月 当社関西統轄部長就任 平成11年 7月 当社取締役営業本部副本部長西 日本担当就任 平成16年 3月 当社取締役営業本部副本部長就 任 平成22年 7月 当社取締役営業本部長就任 平成24年 7月 当社常務取締役営業本部長就任 平成27年 4月 当社常務取締役営業管掌兼経営 企画本部長(現任)	(注) 4	13
取締役		加藤 仁	昭和42年 3月15日生	昭和60年 4月 新潟県警察採用 平成 7年11月 当社入社 平成10年 7月 当社監査役就任 平成11年 6月 (有)フジミプランニング取締役社 長就任 平成11年 7月 当社取締役原材料部長就任 平成14年 8月 住吉食品(有)取締役就任(現任) 平成26年 9月 (株)きむら食品代表取締役就任(現 任) 平成26年 9月 当社取締役(現任)	(注) 4	57
取締役	経営企画本部 副本部長兼経 営企画部長	佐藤 浩一	昭和46年 8月31日生	平成10年 2月 (株)パワーズフジミ入社 平成13年 9月 同社取締役店舗運営部長就任 平成21年 5月 当社入社経営企画部長就任 平成21年 5月 住吉食品(有)取締役就任(現任) 平成22年 7月 当社取締役経営企画部長就任 平成27年 4月 当社取締役経営企画本部副本部 長兼経営企画部長(現任)	(注) 4	222

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)	
取締役	管理本部長兼 経理部長	近藤 充	昭和34年9月4日生	昭和53年3月 平成18年3月 平成22年3月 平成25年7月 平成27年7月	当社入社 当社管理本部経理部長 当社執行役員管理本部副本部長 兼経理部長 当社執行役員管理本部長兼経理 部長 当社取締役管理本部長兼経理部 長就任(現任)	(注)4	8	
取締役	営業本部長	頼田 武幸	昭和36年9月24日生	昭和59年4月 平成18年3月 平成22年3月 平成25年3月 平成27年4月 平成27年7月	当社入社 当社営業本部広域流通部長 当社執行役員営業本部副本部長 兼広域流通部長 当社執行役員営業本部副本部長 当社執行役員営業本部長 当社取締役営業本部長就任(現 任)	(注)4	7	
取締役	生産本部長	赤塚 昌一	昭和37年8月18日生	昭和60年4月 平成19年3月 平成22年3月 平成26年9月 平成27年4月 平成27年7月	当社入社 当社生産本部開発部長 当社執行役員生産本部副本部長 兼開発部長 当社執行役員生産本部長兼開発 部長 当社執行役員生産本部長 当社取締役生産本部長就任(現 任)	(注)4	4	
取締役		増井 哲也	昭和29年10月8日生	昭和54年3月 平成20年12月 平成27年7月	司法書士増井哲也事務所 開業 (現 司法書士法人東にいがた合 同事務所) 同所退職 当社取締役就任(現任)	(注)4		
常勤監査役		小瀬 聡	昭和28年12月3日生	昭和48年6月 平成5年3月 平成14年3月 平成17年7月 平成26年9月	当社入社 当社総務部長 当社監査室長 当社監査役(常勤)就任(現任) ㈱きむら食品監査役就任(現任)	(注)6	7	
監査役		八木原 洋司	昭和17年10月12日生	昭和36年4月 平成11年7月 平成13年9月 平成24年7月	関東信越国税局 入局 三条税務署 署長 税理士事務所 開業(現任) 当社監査役就任(現任)	(注)5		
監査役		渡辺 三雄	昭和22年11月5日生	昭和45年4月 平成14年3月 平成16年3月 平成18年1月 平成26年7月	新潟県経済農業協同組合連合会 入会 全国農業協同組合連合会新潟県 本部米穀部長 同会新潟県本部副本部長 全国農業協同組合連合会 参事 当社監査役就任(現任)	(注)6	1	
計								912

- (注) 1 取締役 増井哲也は、社外取締役であります。  
2 監査役 八木原洋司及び監査役 渡辺三雄は、社外監査役であります。  
3 取締役会長佐藤功は、代表取締役社長佐藤元の実父、取締役加藤仁の義父であります。

- 4 当社は法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役2名を選任しております。なお、補欠監査役が監査役に就任する順位は、古俣敏隆を第1順位、五十嵐英雄を第2順位といたします。

補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
古俣敏隆	昭和26年5月3日生	昭和45年4月 平成23年7月 平成24年9月	関東信越国税局 入局 長野税務署 署長 税理士事務所開業(現任)	(注)	
五十嵐英雄	昭和13年7月29日生	平成5年2月 平成12年6月 平成15年12月 平成17年7月	新潟国分株式会社常務取締役 新潟ヨーク販売株式会社専務取締役(兼務) 新潟国分株式会社及び新潟ヨーク販売株式会社退任 当社監査役	(注)	1

(注)補欠監査役の任期は、古俣敏隆は平成25年7月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間、五十嵐英雄は平成26年7月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間であります。

- 5 平成27年7月24日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
- 6 平成24年7月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- 7 平成25年7月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間(監査役渡辺三雄は、任期満了前に退任した監査役の後任として選任されており、前任者の任期を引継いでおります)
- 8 当社では、取締役会の意思決定・業務執行の監督と各事業部の業務執行機能を明確にし、経営効率の向上及び意思決定の迅速化を図るために執行役員制度を導入しております。

執行役員は3名で、生産本部付 上村栄一、生産本部副本部長兼東港工場長 渋谷弘、管理本部副本部長兼総務部長 黒川正幸で構成されております。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### (コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社は、日本の食文化を大切に、「食」を通じて社会に貢献する企業を目指すことを基本理念とするとともに、株主や消費者の皆様から信頼される安全・安心な「食」の提供者として、また各ステークホルダーに対する企業価値向上を図ることを経営の基本方針としております。

そのためには、経営の効率化、経営体制の強化、経営責任の明確化を推進し、絶えず実効性の面から経営管理体制や組織と仕組みの見直しと改善に努めてまいります。

また、当社は現状規模において競争力のある健全な企業経営を行っていくためには、現在の監査役設置会社であり、かつ会計監査人設置会社の機関設計が当社にとって最も効率的であると考えており、それを前提に迅速かつ正確な情報開示に努め、経営に対する透明性の向上、コンプライアンス、監視・チェック機能の強化、内部統制及びリスク管理の徹底を図り、コーポレート・ガバナンスの充実に努めていきたいと考えております。

#### 企業統治の体制

##### イ 企業統治の体制の概要

当社は前記に示すとおり、監査役制度を採用するとともに、取締役会による経営監督機能と各事業部の業務執行機能の役割を明確にし、経営効率の向上及び意思決定の迅速化を図るために執行役員制度を導入しております。

当社の会社機関の概要は次のとおりであります。

##### < 取締役会 >

取締役会は、当社の規模と機動性を勘案し、現在取締役9名の体制をとっております。定例取締役会を毎月1回開催するほか、必要に応じ臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を監督しております。

##### < 常務会及び経営戦略会議、部課長会議 >

経営の基本方針及び経営戦略に関わる重要事項の審議・決定については事前に役付取締役を中心とした常務会を開催し、意思決定を機動的に行っております。また、コーポレート・ガバナンスが有効に機能するよう経営トップと各部署の責任者により構成される経営戦略会議を毎月1回、並びに部課長会議を毎週開催し、事業計画及び重要な業務執行に関する審議・連絡及び調整を行っております。

##### < 監査役及び監査役会 >

監査役会は現在3名(常勤監査役1名、社外監査役2名)で構成されており、各監査役は監査役会が定めた監査方針及び業務分担に基づき、取締役の職務執行の適正性について監査しております。社外監査役2名は、専門性があり、当社の経営をその専門的知識や経験から監査・監督できる人材を選任しております。なお、監査役は組織的かつ効率的な監査体制が実現できるよう代表取締役社長及び当社の会計監査人と定期的に意見交換を行っており、また、常勤監査役は取締役会の他、重要な意思決定の過程及び職務執行状況を把握するため、部課長会議等重要な会議に出席しております。

##### < 会計監査人 >

会計監査人につきましては、有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結し、会社法及び金融商品取引法の規定に基づき、公正不偏な立場から厳格な監査を受けております。なお、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には、特別な利害関係はなく、同監査法人は法令に基づき業務執行社員について、当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっております。

##### < 内部統制監査室 >

内部監査部門である代表取締役社長直属の内部統制監査室は、各部門・工場等の監査を定期的実施し、業務遂行が各種法令や社内規程及び事業計画に準拠して実施されているか、効果的・効率的に行われているか等についてチェック・指導する体制をとっております。

代表取締役社長、監査役会、会計監査人及び内部統制監査室は、必要の都度相互に情報交換・意見交換を行う等の連携を密にして、監査の実効性と効率性の向上を目指しております。

## ロ 企業統治の体制を採用する理由

現在当社の取締役会は9名で、業務分掌による権限と責任の委譲が明確になっており、企業経営に必要なスピーディで正確な意思決定及び業務執行は十分実行できていると考えております。また、社外からの経営監視機能という観点では、社外取締役を1名及び社外監査役を2名選任しており、社外役員を通じて企業経営の客観性及び中立性は確保されていると考えております。

### (内部統制システムに関する基本的な考え方)

当社は、会社法の施行にともない、代表取締役社長により具体的に実行されるべき当社の「内部統制システムの構築において、遵守すべき基本方針」を次のとおり定めております。また、当社では「誠実と責任とを以って日々努力を重ね、より品質を高めて消費者の信頼に応えよう」という社是を経営理念とし、内部統制システムについては、企業としての社会的信頼に応え、企業理念・法令順守の基本姿勢を明確にし、社会的責任を常に意識した健全な事業活動の推進に取り組み、食品メーカーとして信頼していただける企業となるよう努めております。

#### <取締役及び使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制>

取締役及び使用人のコンプライアンスの維持は「コンプライアンス規程」に基づき各取締役が責任役員として自己の担当部署について責任を持って法令・定款の遵守の徹底を図り、万一コンプライアンスに関する重要な事態が発生した場合には、直ちにその内容・対処案を責任役員から取締役会、監査役に報告するものとする。

監査役は当社のコンプライアンス体制に問題があると認められるときは、意見を述べるとともに、必要に応じて運用状況の検証を行い改善策の策定を求めることとする。

#### <取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制>

取締役の職務執行に係る情報・文書の取扱いは、当社社内規程に従い適切に保存及び管理(廃棄を含む)を行うとともに、必要に応じて運用状況の検証、各規程等の見直しを行うこととする。

#### <取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制>

当社は、取締役会を毎月1回定時に開催するほか、必要に応じて随時開催するものとし、重要事項の決定並びに取締役の職務執行状況の監督について業務報告を通じ定期的に行い、経営方針及び経営戦略に関わる重要事項については事前に役付取締役を中心とした常務会を開催し、意思決定を機動的に行うこととする。

また、取締役会の決定に基づく取締役の職務執行を効率的に実現するため、経営トップと各部署の責任者により構成される経営戦略会議を毎月1回並びに部課長会議を毎週開催し、事業計画等が当初の予定通りに進捗しているか審議・連絡及び調整を行うこととする。

#### <損失の危険の管理に関する規程その他の体制>

当社は、「リスク管理規程」により、リスクの予防・リスクの発生に備えた事前準備や処理体制の確立を行う。そのうえ代表取締役社長に直属する部署として、内部統制監査室を設置し、定期的に「内部監査規程」による監査を実施するとともに、監査実施項目・監査方法や「リスク管理規程」等の見直しも定期的実施・検証し、必要があれば改正を行うものとする。

内部統制監査室の監査により法令・定款違反その他の事由に基づき損失の危険があると推測される場合またはそのような業務執行行為が発見された場合には、その内容及びそれらがもたらす、またはもたらした損失の程度等について「リスク管理規程」に基づき、直ちに責任役員から取締役会、監査役に報告し、そのリスクの程度に応じた対応策を策定するとともに直ちにリスク発生に対処する体制を構築することとする。

また、内部統制監査室の活動を円滑にするため、定期的に各規程等の整備を各部署に求め、内部統制監査室の監査方針・「リスク管理規程」等各規程及び職務権限と責任の所在について全使用人に周知徹底する。

#### <当社及び関係会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制>

関係会社に関する業務の適正を確保するための部署である関連事業課において、社内規程に従い関係会社の経営管理を行うことで、経営の健全性及び効率性等の向上を図るとともに、関係会社はその経営内容については定期的に、重要案件については発生した都度、当社関連事業課に対し報告を行うこととする。

内部統制監査室は原則として毎年1回以上、定期または臨時に実地監査を行い、関係会社に損失の危険(おそれのある場合を含む)を発見した場合には、直ちにその内容及び当社に対する影響等について、当社の取締役会及び担当部署に報告するものとする。

< 監査役の職務を補助すべき使用人に関する事項 >

監査役の職務を補助すべき者として、当社の使用人から監査役補助者を任命する。

当該使用人は、監査役の指揮命令下で職務を遂行しその評価については監査役が行いその補助者の任命・解任・人事異動・賃金等の改定については、監査役会の同意を必要とすることにより、取締役からの独立性を確保するとともに、監査役の当該使用人に対する指示の実効性を確保するものとする。

< 監査役への報告体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するためのその他の体制 >

当社並びに関係会社の取締役及び使用人は、当社監査役の指示に従い、報告すべき事項は要求された期限を厳守し、報告事項、情報、資料等速やかに報告・提示するなど、当社監査役の要請する事項には全面的に協力する体制を徹底する。また「社内通報規程」に基づき、当社または関係会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実及び法令違反その他のコンプライアンス上の問題を発見したときは、直ちに当社監査役に報告するものとし、当該通報を行った者に対して、いかなる不利益な取り扱いを行わないものとする。

当社及び関係会社の常勤監査役は取締役会の他、重要な意思決定の過程及び職務執行状況を把握するため、経営戦略会議や部課長会議等重要な会議に出席するとともに、稟議書その他職務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて当社監査役に対してその状況を報告する。

監査役会は必要に応じ、会計監査人や弁護士に相談することができ、その費用は会社が負担するものとする。

なお、監査役は組織的かつ効率的な監査体制が実現できるよう代表取締役社長及び当社の会計監査人と定期的に意見交換を行うなど連携を図っていくものとする。

< 財務報告の適正及び信頼性を確保するための体制 >

当社は、財務報告の信頼性と適正性を確保するため、金融商品取引法及び関係法令に基づく内部統制報告制度を有効かつ適切に運用するとともに、継続的に運用評価・有効性の確認を行い、必要があれば改善を行うものとする。

## 八 内部統制システム(リスク管理体制を含む)の整備の状況

当社は模式図のとおり、株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人、内部統制監査室等を中心とした内部統制システムの整備を図っており、監査に係る各種規程等に基づく、監査役と内部統制監査室及び会計監査人の連携強化等による監査役監査の機能強化に重点を置いております。

また、当社の会計監査人である有限責任監査法人トーマツからは監査の都度コーポレート・ガバナンス、リスク管理・内部統制に係る評価及び改善するための指導を受けております。

なお、「内部統制システムの構築に関する基本方針」で示した“コンプライアンス体制”、“情報管理体制”及び“リスク管理体制”“関係会社管理体制”の構築に向けた基本規程については整備を完了し、適切な運用がなされております。

## 二 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及び整備の状況

< 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方 >

当社は、「コンプライアンス規程」において、社会秩序や会社の健全な経営に脅威を与える反社会的勢力・団体に対しては、毅然とした態度で行動することを明記し、その堅持に努めており、名目の如何を問わず一切の関係の遮断を全社統一した対応の基本方針として行動いたします。

< 反社会的勢力排除に向けた整備の状況 >

当社は、コンプライアンス規程において、反社会的勢力・団体に対する対応について明記しており、その排除については全ての役員・従業員が守るべき責務として認識しております。さらに、リスク管理規程において、反社会的勢力・団体からの不当要求を経営危機と捉え、外部関係機関と連携し、組織全体として対応する旨規程しております。また、反社会勢力・団体に対しては、管理本部を統括部署とし、全社統一して対応することとしており、予防策としては、警察等が主催する研修会等に積極的に参加し情報収集と対応に努めております。



社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

当社は、独立性の高い社外役員を選任することで、経営の客観性を高めるとともに、経営の透明性の向上及びコンプライアンスの強化をはかっております。

なお、当社には社外役員の独立性に関する一定の基準又は方針はないものの、選任にあたっては、これまでの実績、人格・識見を考慮の上、東京証券取引所の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

イ 社外取締役及び社外監査役と当社との人的関係・資本的關係又は取引關係その他利害關係

社外監査役渡辺三雄氏は、平成20年まで当社の仕入先である全国農業協同組合連合会の参事でありましたが、退任後約7年が経過しております。また、同氏は当社普通株式1,000株を保有しております。

上記以外に社外取締役及び社外監査役と当社との間には、特別な人的関係、資本的關係または取引關係その他の利害關係はありません。

ロ 社外取締役及び社外監査役が当社の企業統治において果たす機能及び役割

社外取締役増井哲也氏は、司法書士として長年培った高度な法務知識を有しており、経営判断の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を得る目的で選任しております。

社外監査役八木原洋司氏は、税理士としての長年の知識、専門性を考慮し、公正普遍的な立場で会社経営を監督できるものと考えております。

社外監査役渡辺三雄氏は、前職での豊富な経験と知識を考慮し、経営の客観性・中立性を重視する視点で会社経営を監督できるものと考えております。

なお、当社は、選任した上記の社外役員3名全員を東京証券取引所の定めに基づく独立役員に指定し、同取引所に届け出ております。

役員の報酬等

イ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役	130,700	120,600	7,200	2,900	5
監査役 (社外監査役除く。)	13,160	11,760	1,000	400	1
社外役員	5,840	4,800	240	800	3

ロ 役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

ハ 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

ニ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

役員報酬については、株主総会の決議により取締役及び監査役それぞれの報酬等の限度額を決定しております。各取締役及び監査役の報酬額は、経営内容、経済情勢、社員給与とのバランス等を考慮して、取締役の報酬は取締役会の決議により決定し、監査役の報酬は監査役の協議により決定しております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 17銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 1,042,342千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
三菱食品(株)	103,400	236,682	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
一正蒲鉾(株)	258,400	211,888	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
加藤産業(株)	36,336	77,250	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)第四銀行	78,126	28,828	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)北越銀行	61,916	12,940	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
イズミヤ(株)	20,000	9,680	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	10,720	5,810	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
王子ホールディングス(株)	7,000	3,003	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)いなげや	2,278	2,275	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)三井住友フィナンシャルグループ	316	1,274	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
一正蒲鉾(株)	516,800	548,324	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
三菱食品(株)	103,400	262,015	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
加藤産業(株)	36,336	92,511	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)第四銀行	78,126	35,391	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)北越銀行	61,916	14,921	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
エイチ・ツー・オー リテイリング(株)	6,300	13,608	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	10,720	9,175	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
王子ホールディングス(株)	7,000	3,738	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)いなげや	2,281	3,074	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)三井住友フィナンシャルグループ	316	1,656	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

純投資目的である株式は保有していません。

**株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項及びその理由**

当社は、自己の株式取得について、経済情勢の変化に機動的に対応した効率的な経営の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって同条第1項に定める市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款で定めております。

**取締役の定数**

当社の取締役は15名以内とする旨定款に定めております。

**取締役の選任の決議要件**

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

**株主総会の特別決議要件**

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

**中間配当**

当社は、株主への機動的な利益還元を目的として、取締役会の決議によって、毎年10月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

**(2)【監査報酬の内容等】**

**【監査公認会計士等に対する報酬の内容】**

提出会社

前事業年度	
監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
20,000	

区分	当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	25,000	11,300
連結子会社		
計	25,000	11,300

**【その他重要な報酬の内容】**

該当事項はありません。

**【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】**

前事業年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

当社は、会計監査人に対して、財務デューデリジェンス業務及び財務報告に係る内部統制に関する助言業務等についての対価を支払っております。

**【監査報酬の決定方針】**

当社の事業規模、業務の特性、監査日数等を勘案し、監査役会の同意を得たうえで決定しております。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。  
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。
- (3) 当連結会計年度(平成26年5月1日から平成27年4月30日まで)は、連結財務諸表の作成初年度であるため、以下に掲げる連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書については、前連結会計年度との対比は行っていません。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年5月1日から平成27年4月30日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成26年5月1日から平成27年4月30日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構への加入、監査法人及び各種団体の主催する研修への参加及び専門誌等の購読を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

当連結会計年度  
 (平成27年4月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,943,924
受取手形及び売掛金	5,174,416
商品及び製品	2,002,711
仕掛品	416,266
原材料及び貯蔵品	5,771,262
その他	336,167
貸倒引当金	4,300
流動資産合計	15,640,447
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物	9,064,616
減価償却累計額	6,491,496
建物及び構築物(純額)	1 2,573,120
機械装置及び運搬具	19,631,749
減価償却累計額	16,264,517
機械装置及び運搬具(純額)	1 3,367,231
土地	1 2,347,426
リース資産	447,433
減価償却累計額	80,730
リース資産(純額)	366,703
その他	946,728
減価償却累計額	818,527
その他(純額)	1 128,200
有形固定資産合計	8,782,681
無形固定資産	
投資その他の資産	
投資有価証券	1,042,342
投資不動産	3,437,189
減価償却累計額	805,770
投資不動産(純額)	1 2,631,418
その他	303,128
貸倒引当金	25,310
投資その他の資産合計	3,951,579
固定資産合計	12,846,561
繰延資産	13,396
資産合計	28,500,405

(単位：千円)

当連結会計年度  
 (平成27年4月30日)

<b>負債の部</b>	
流動負債	
支払手形及び買掛金	746,027
短期借入金	1 4,900,000
1年内返済予定の長期借入金	1 1,687,807
未払金	1,503,530
賞与引当金	314,600
役員賞与引当金	8,440
その他	1,174,486
流動負債合計	10,334,892
固定負債	
社債	866,000
長期借入金	1 5,576,800
リース債務	345,105
役員退職慰労引当金	68,616
退職給付に係る負債	923,985
その他	345,329
固定負債合計	8,125,836
負債合計	18,460,728
純資産の部	
株主資本	
資本金	543,775
資本剰余金	506,000
利益剰余金	8,939,392
自己株式	306,009
株主資本合計	9,683,158
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	512,037
退職給付に係る調整累計額	155,519
その他の包括利益累計額合計	356,518
純資産合計	10,039,677
負債純資産合計	28,500,405

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自平成26年5月1日 至平成27年4月30日)	
売上高		33,551,275
売上原価		21,210,234
売上総利益		12,341,040
販売費及び一般管理費	1、2	11,170,109
営業利益		1,170,931
営業外収益		
受取利息		920
受取配当金		10,444
受取賃貸料		200,607
副産物収入		61,916
受取手数料		72,957
電力販売収益		53,449
その他		49,593
営業外収益合計		449,890
営業外費用		
支払利息		180,734
賃貸費用		130,187
開業費		56,755
その他		142,411
営業外費用合計		510,088
経常利益		1,110,733
特別利益		
固定資産売却益	3	20,722
特別利益合計		20,722
特別損失		
固定資産売却損	4	1,056
訴訟関連損失	5	896,978
特別損失合計		898,034
税金等調整前当期純利益		233,421
法人税、住民税及び事業税		82,605
法人税等調整額		31,196
法人税等合計		113,802
少数株主損益調整前当期純利益		119,618
当期純利益		119,618

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
少数株主損益調整前当期純利益	119,618
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	277,248
退職給付に係る調整額	18,547
その他の包括利益合計	<sup>1</sup> 258,700
包括利益	378,319
(内訳)	
親会社株主に係る包括利益	378,319
少数株主に係る包括利益	-

【連結株主資本等変動計算書】

当連結会計年度(自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	543,775	506,000	8,877,426	305,952	9,621,248
当期変動額					
剰余金の配当			57,652		57,652
当期純利益			119,618		119,618
自己株式の取得				57	57
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					-
当期変動額合計	-	-	61,966	57	61,909
当期末残高	543,775	506,000	8,939,392	306,009	9,683,158

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差 額金	退職給付に係る調整累 計額	その他の包括利益累計 額合計	
当期首残高	234,789	143,968	90,820	9,712,069
当期変動額				
剰余金の配当			-	57,652
当期純利益			-	119,618
自己株式の取得			-	57
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	277,248	11,550	265,697	265,697
当期変動額合計	277,248	11,550	265,697	327,607
当期末残高	512,037	155,519	356,518	10,039,677

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当連結会計年度  
(自 平成26年5月1日  
至 平成27年4月30日)

<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前当期純利益	233,421
減価償却費	1,143,024
のれん償却額	14,211
貸倒引当金の増減額(は減少)	380
受取利息及び受取配当金	11,364
支払利息及び社債利息	184,412
有形固定資産売却損益(は益)	19,666
売上債権の増減額(は増加)	638,881
たな卸資産の増減額(は増加)	2,855,602
仕入債務の増減額(は減少)	67,604
賞与引当金の増減額(は減少)	14,516
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	500
役員賞与引当金の増減額(は減少)	3,590
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	55,910
訴訟関連損失	896,978
未収消費税等の増減額(は増加)	23,952
未払消費税等の増減額(は減少)	537,850
差入保証金の増減額(は増加)	80,000
その他	523,126
小計	5,616,412
法人税等の支払額	33,472
訴訟関連損失の支払額	896,978
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,685,961
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
利息及び配当金の受取額	11,364
有形固定資産の取得による支出	1,969,420
有形固定資産の売却による収入	43,306
有形固定資産の除却による支出	8,430
投資有価証券の取得による支出	3
無形固定資産の取得による支出	1,692
定期預金の増減額(は増加)	350
事業譲受による支出	<sup>2</sup> 1,715,780
その他	95,898
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,545,109
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
利息の支払額	176,310
長期借入れによる収入	4,400,000
長期借入金の返済による支出	1,615,085
社債の発行による収入	687,046
自己株式の取得による支出	57
配当金の支払額	57,632
短期借入金の純増減額(は減少)	4,250,000
リース債務の返済による支出	48,883
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,060,923
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	79,928
現金及び現金同等物の期首残高	100,585
現金及び現金同等物の期末残高	<sup>1</sup> 180,513

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 1社

連結子会社の名称 株式会社きむら食品

平成26年8月8日付で当社100%の子会社として宝町食品株式会社を設立したため、第2四半期連結会計期間より当該子会社を連結の範囲に含めております。

なお、当該子会社は平成26年9月16日付で株式会社きむら食品から食品事業を譲受けており、同日付にて「株式会社きむら食品」に商号を変更しております。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社株式会社きむら食品の決算日は、3月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、4月1日から連結決算日4月30日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

商品及び製品・仕掛品

総平均法による原価法(連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

原材料

月次総平均法による原価法(連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15～38年

機械及び装置 10年

無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引にかかるリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

投資不動産

定率法(ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 10～34年

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額を基準として計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払いに備えるため、役員退職慰労金規程(内規)に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

小規模企業等における簡便法の採用

連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当連結会計年度末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を採用しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

5年間の定額法により償却しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価格の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期資金からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当連結会計年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準に変更、割引率の決定方法を従業員の残存勤務期間に近似した年数を基礎として割引率を決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な扱いに従って、当連結会計年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更を行っておりますが、期首利益剰余金に加減する影響額はありません。

この結果、当連結会計年度の連結財務諸表への影響額はありません。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

工場財団

	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
建物及び構築物(純額)	2,266,393千円
機械装置及び運搬具(純額)	3,408,276千円
土地	1,204,513千円
計	6,879,183千円

その他

	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
建物及び構築物(純額)	288,353千円
機械装置及び運搬具(純額)	2,853千円
土地	811,861千円
有形固定資産のその他(純額)	30,401千円
投資不動産(純額)	1,839,842千円
計	2,973,313千円

担保付債務

	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
短期借入金	2,752,526千円
1年内返済予定の長期借入金	867,175千円
長期借入金	3,927,220千円
計	7,546,921千円

2 偶発債務

仕入取引の担保として差し入れた振出手形は、102,000千円であります。

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
販売促進費	6,489,014千円
発送費	1,222,282千円
貸倒引当金繰入額	400千円
賞与引当金繰入額	87,459千円
役員賞与引当金繰入額	8,440千円
退職給付費用	45,225千円
役員退職慰労引当金繰入額	4,100千円

2 販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
	175,993千円

3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
土地	20,722千円

4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
機械装置及び運搬具	1,056千円
有形固定資産のその他	0千円
計	1,056千円

5 訴訟関連損失

当連結会計年度(自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)

訴訟関連損失は、越後製菓株式会社との訴訟の判決確定に伴う損失であります。

(追加情報)

訴訟の解決

当社は、越後製菓株式会社(以下、「越後製菓」という。)より、当社が側面に切り込みの入った切り餅を製造・販売する行為が越後製菓の所有する特許権を侵害しているとして、平成24年 4月27日付で、1,915,950千円の損害賠償を請求する訴訟を提起されておりましたが、平成27年 4月10日付で、東京地方裁判所より、782,778千円及びこれに対する平成24年 5月29日から支払済みまで年5分の割合による金員の支払等を命じる判決を受け、控訴しないことを決定し判決が確定しました。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
その他有価証券評価差額金	
当期発生額	394,780千円
組替調整額	
税効果調整前	394,780千円
税効果額	117,531千円
その他有価証券評価差額金	277,248千円
退職給付に係る調整額	
当期発生額	37,147千円
組替調整額	20,136千円
税効果調整前	17,011千円
税効果額	1,536千円
退職給付に係る調整額	18,547千円
その他の包括利益合計	258,700千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

当連結会計年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	5,075,500			5,075,500

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	271,145	19		271,164

(注) 普通株式の自己株式数の増加19株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年7月25日 定時株主総会	普通株式	57,652	12.00	平成26年4月30日	平成26年7月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年7月24日 定時株主総会	普通株式	105,695	利益剰余金	22.00	平成27年4月30日	平成27年7月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
現金及び預金	1,943,924千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	1,763,410千円
現金及び現金同等物	180,513千円

2 事業譲受けにより増加した資産及び負債の主な内訳

当連結会計年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

新たに設立した宝町食品(株)(現株きむら食品)が株きむら食品からの事業譲受により取得した資産及び負債の主な内訳は、次のとおりであります。

流動資産	1,206,256千円
固定資産	826,055千円
のれん	106,586千円
流動負債	53,851千円
固定負債	369,266千円

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

- ・有形固定資産 主として、ホストコンピュータ、コンピュータ端末機及び工場生産設備(機械装置及び運搬具)であります。
- ・無形固定資産 ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金調達については主に銀行等金融機関からの借入により行っております。また、資金運用については安全性が高く短期的な預金等に限定しており、デリバティブ等の投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。

短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、社債及び長期借入金は営業取引及び設備投資に係る資金調達であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、販売管理規程及び売掛金管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、財政状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスクの管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、担当部署が適時に月次の資金繰計画を作成・更新するとともに、全社一括支払システムにより資金需要を把握し、必要に応じ短期借入金の実行若しくは返済を行い手元流動性を維持することによりリスク管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動する場合があります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください。)

当連結会計年度(平成27年4月30日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,943,924	1,943,924	
(2) 受取手形及び売掛金	5,174,416	5,174,416	
(3) 投資有価証券 その他有価証券	984,417	984,417	
資産計	8,102,757	8,102,757	
(1) 支払手形及び買掛金	746,027	746,027	
(2) 短期借入金	4,900,000	4,900,000	
(3) 未払金	1,503,530	1,503,530	
(4) 社債(1年内償還予定を含む)	900,000	900,000	
(5) 長期借入金 (1年内返済予定を含む)	7,264,607	7,261,168	3,438
負債計	15,314,164	15,310,726	3,438

(注1)金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価については取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金

これらはすべて短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 社債(1年内償還予定を含む)、(5) 長期借入金(1年内返済予定を含む)

社債及び長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規発行または新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成27年4月30日
投資有価証券 非上場株式	57,924

非上場株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、資産における「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

当連結会計年度(平成27年4月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)
現金及び預金	1,943,924	
受取手形及び売掛金	5,174,416	
合計	7,118,340	

(注4) 社債、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

当連結会計年度(平成27年4月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	4,900,000					
社債	34,000	234,000	34,000	34,000	564,000	
長期借入金	1,687,807	1,403,398	1,125,828	948,951	697,018	1,401,605
合計	6,621,807	1,637,398	1,159,828	982,951	1,261,018	1,401,605

(有価証券関係)

1. その他有価証券

当連結会計年度(平成27年4月30日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	984,417	263,058	721,359
小計	984,417	263,058	721,359
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式			
小計			
合計	984,417	263,058	721,359

2. 当連結会計年度において、投資有価証券の減損処理はありません。

なお、時価のある有価証券の減損処理にあたっては、連結事業年度末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度を採用しております。

確定給付企業年金制度(積立型制度であります。)では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。

連結子会社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けており、その一部を確定拠出型の制度に移行しております。

なお、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表((3)に掲げられた簡便法を適用した制度を除く)

	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
退職給付債務の期首残高	2,011,613 千円
勤務費用	112,670 千円
利息費用	22,127 千円
数理計算上の差異の発生額	32,326 千円
退職給付の支払額	54,338 千円
退職給付債務の期末残高	2,124,400 千円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表((3)に掲げられた簡便法を適用した制度を除く)

	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
年金資産の期首残高	1,407,975 千円
期待運用収益	28,159 千円
数理計算上の差異の発生額	4,821 千円
事業主からの拠出額	152,660 千円
退職給付の支払額	54,338 千円
年金資産の期末残高	1,529,636 千円

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
退職給付に係る負債の期首残高	
退職給付費用	10,401 千円
退職給付の支払額	40,426 千円
企業結合による影響額	359,246 千円
退職給付に係る負債の期末残高	329,221 千円

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	当連結会計年度 (平成27年 4月30日)
積立型制度の退職給付債務	2,536,153 千円
年金資産	1,612,168 千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	923,985 千円
退職給付に係る負債	923,985 千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	923,985 千円

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
勤務費用	112,670 千円
利息費用	22,127 千円
期待運用収益	28,159 千円
数理計算上の差異の費用処理額	27,397 千円
過去勤務費用の費用処理額	7,261 千円
簡便法で計算した退職給付費用	10,401 千円
確定給付制度に係る退職給付費用	137,176 千円

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は、次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
過去勤務費用	7,261 千円
数理計算上の差異	9,750 千円
合計	17,011 千円

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果調整前)の内訳は、次のとおりであります。

	当連結会計年度 (平成27年 4月30日)
未認識過去勤務費用	32,070 千円
未認識数理計算上の差異	261,111 千円
合計	229,041 千円

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	当連結会計年度 (平成27年 4月30日)
一般勘定	100 %
合計	100 %

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

	当連結会計年度 (平成27年 4月30日)
割引率	1.1 %
長期期待運用収益率	2.0 %

なお、予想昇給率は、平成25年10月31日を基準日として算定した年齢別昇給指数を使用しております。

3. 確定拠出制度

当連結会計年度における連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、6,562千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生主な原因別の内訳

当連結会計年度 (平成27年4月30日)	
(繰延税金資産)	
賞与引当金	103,814千円
未払事業税	8,633千円
未払社会保険料	14,908千円
退職給付に係る負債	195,018千円
役員退職慰労引当金	22,025千円
投資有価証券評価損	56,640千円
会員権評価損	15,350千円
貸倒引当金	9,510千円
減損損失	59,518千円
資産除去債務	27,709千円
繰越欠損金	40,923千円
資産調整勘定	13,600千円
その他	29,300千円
繰延税金資産小計	596,954千円
評価性引当額	170,066千円
繰延税金資産合計	426,888千円
(繰延税金負債)	
未収還付事業税	144千円
資産除去債務に対応する費用	1,240千円
のれん	10,342千円
特別償却準備金	113,984千円
その他有価証券評価差額金	209,321千円
繰延税金負債合計	335,033千円
繰延税金資産の純額	91,854千円

(注) 当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

当連結会計年度 (平成27年4月30日)	
流動資産 - 繰延税金資産	191,839千円
固定資産 - 繰延税金資産	80,420千円
固定負債 - 繰延税金負債	180,405千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

当連結会計年度 (平成27年4月30日)	
法定実効税率	35.3%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	8.5%
住民税均等割額	4.0%
評価性引当額	10.3%
のれん償却額	1.5%
連結子会社との税率差異	1.1%
税効果を伴わない連結手続項目	1.0%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	7.4%
その他	0.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	48.8%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する法律」が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成27年5月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、従来の35.3%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年5月1日から平成28年4月30日までのもは32.8%、平成28年5月1日以降のものについては32.1%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が3,608千円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が17,146千円、その他有価証券評価差額金が20,866千円、退職給付に係る調整累計額が7,329千円それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

相手企業の名称及び取得した事業の内容

相手企業の名称 株式会社きむら食品

取得した事業の内容 食品事業

企業結合を行った主な理由

株式会社きむら食品の事業再生を目的とし締結したスポンサー契約に基づき、同社が営む食品事業を譲受け、協力体制を構築することで、同事業並びに餅業界の更なる発展が望めるものと考えたとともに、当社グループの企業価値の向上に資すると判断し、当社が100%出資して新規設立した宝町食品株式会社にて同事業を譲受けることといたしました。なお、宝町食品株式会社は、平成26年9月16日に株式会社きむら食品に商号を変更しております。

企業結合日

平成26年9月16日

企業結合の法的形式

事業譲受

結合後企業の名称

株式会社きむら食品

取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価として事業を譲受けたためであります。

(2) 連結財務諸表に含まれている取得した事業の業績の期間

平成26年9月16日から平成27年3月31日まで

(3) 取得した事業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	1,681,683千円
取得に直接要した費用	アドバイザー費用等	34,097千円
取得原価		1,715,780千円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん

106,586千円

発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力であります。

償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	1,206,256千円
固定資産	826,055千円
資産合計	2,032,312千円
流動負債	53,851千円
固定負債	369,266千円
負債合計	423,117千円

(6) 企業結合が当連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその判定方法

概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(賃貸等不動産関係)

当社グループでは、新潟県及び東京都において、賃貸用の店舗(土地を含む)・オフィスフロア及び遊休不動産として工場建設予定地等を所有しております。平成27年4月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は39,452千円(賃貸収益は営業外収益に、賃貸費用は営業外費用に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

		当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	2,399,572
	期中増減額	738,291
	期末残高	3,137,864
期末時価		3,129,589

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2 期中増減額のうち、主な増加額は賃貸用のオフィスフロアの取得(781,824千円)であり、主な減少額は店舗取壊し及び償却(30,217千円)並びに遊休土地の譲渡(18,500千円)であります。

3 期末時価は、「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む)であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

当連結会計年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	包装餅製品	包装米飯製品	その他製品	合計
外部顧客への売上高	17,915,548	15,582,916	52,810	33,551,275

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高(千円)
加藤産業(株)	7,877,479
三菱食品(株)	7,861,057
伊藤忠商事(株)	6,145,331
三井物産(株)	5,156,226

(注) 当社グループは、単一セグメントであるため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当社グループは、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
1株当たり純資産額	2,089円71銭
1株当たり当期純利益金額	24円90銭

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。  
 2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
1株当たり当期純利益金額	
当期純利益(千円)	119,618
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る当期純利益(千円)	119,618
普通株式の期中平均株式数(株)	4,804

- 3 「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取り扱いに従っております。当該会計方針の変更による影響はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
佐藤食品工業(株)	第1回無担保社債	平成26年 3月28日	200,000	200,000	0.46	無担保	平成29年 3月28日
"	第2回無担保社債	平成27年 3月20日		500,000	0.40	無担保	平成32年 3月19日
"	第3回無担保変動 利付社債	平成27年 3月31日		200,000 (34,000)	0.26	無担保	平成32年 3月31日
合計			200,000	900,000 (34,000)			

(注) 1 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
34,000	234,000	34,000	34,000	564,000

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	9,150,000	4,900,000	1.2	
1年以内に返済予定の長期借入金	1,196,896	1,687,807	0.7	
1年以内に返済予定のリース債務	48,682	50,068		
長期借入金(1年以内に返済予定 のものを除く。)	3,282,796	5,576,800	0.6	平成28年～平成36年
リース債務(1年以内に返済予定 のものを除く。)	379,851	345,105		平成28年～平成35年
その他有利子負債				
合計	14,058,226	12,559,780		

(注) 1 平均利率については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,403,398	1,125,828	948,951	697,018
リース債務	48,847	48,847	48,765	46,782

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)		10,451,381	27,458,818	33,551,275
税金等調整前 四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損 失金額( ) (千円)		389,833	1,202,675	233,421
四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損 失金額( ) (千円)		241,060	760,104	119,618
1株当たり 四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損 失金額( ) (円)		50.18	158.21	24.90

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額又 は四半期純損失金額 ( ) (円)		6.14	208.39	133.31

(注) 第2四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しております。

決算日後の状況

特記事項はありません。

## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,863,645	1,806,152
売掛金	4,535,534	4,808,511
商品及び製品	1,794,956	1,841,693
仕掛品	332,898	235,288
原材料及び貯蔵品	7,731,494	5,532,209
前払費用	35,618	24,369
繰延税金資産	199,195	167,301
その他	65,977	2 76,463
貸倒引当金	3,900	4,100
流動資産合計	16,555,420	14,487,889
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	1 2,056,599	1 2,165,207
構築物	1 180,829	1 157,829
機械及び装置	1 3,369,830	1 3,155,687
車両運搬具	26,711	18,551
工具、器具及び備品	1 36,044	1 57,067
土地	1 1,935,181	1 2,110,816
リース資産	408,127	366,703
建設仮勘定	11,871	7,642
有形固定資産合計	8,025,196	8,039,506
<b>無形固定資産</b>		
借地権	243	243
ソフトウェア	1,416	-
リース資産	-	9,247
電話加入権	8,887	8,887
無形固定資産合計	10,547	18,378
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	647,558	1,042,342
関係会社株式	-	1,200,000
出資金	6,600	6,600
長期前払費用	1,790	991
投資不動産	1 1,893,126	1 2,631,418
会員権	34,635	34,635
その他	106,086	81,915
貸倒引当金	25,330	25,310
投資その他の資産合計	2,664,466	4,972,592
固定資産合計	10,700,210	13,030,477
<b>繰延資産</b>		
社債発行費	2,472	13,396
繰延資産合計	2,472	13,396
資産合計	27,258,103	27,531,764

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	279,222	267,285
買掛金	399,200	368,471
短期借入金	<sup>1</sup> 9,150,000	<sup>1, 2</sup> 5,250,000
1年内償還予定の社債	-	34,000
1年内返済予定の長期借入金	<sup>1</sup> 1,196,896	<sup>1</sup> 1,627,807
リース債務	48,682	50,068
未払金	1,102,737	1,236,047
未払費用	284,349	302,751
未払法人税等	35,000	13,000
未払消費税等	12,139	549,990
預り金	68,839	39,440
前受収益	22,310	20,081
賞与引当金	281,742	282,186
役員賞与引当金	4,850	8,440
資産除去債務	6,600	28,500
設備関係支払手形	12,374	3,694
流動負債合計	12,904,944	10,081,765
<b>固定負債</b>		
社債	200,000	866,000
長期借入金	<sup>1</sup> 3,282,796	<sup>1</sup> 5,366,800
リース債務	379,851	345,105
長期未払金	1,396	1,396
繰延税金負債	68,353	180,405
退職給付引当金	391,607	365,722
役員退職慰労引当金	68,116	68,616
資産除去債務	46,885	47,834
受入敷金保証金	58,115	107,102
固定負債合計	4,497,121	7,348,981
負債合計	17,402,065	17,430,746

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	543,775	543,775
資本剰余金		
資本準備金	506,000	506,000
資本剰余金合計	506,000	506,000
利益剰余金		
利益準備金	135,943	135,943
その他利益剰余金		
特別償却準備金	259,197	239,720
別途積立金	8,300,000	8,300,000
繰越利益剰余金	182,284	169,549
利益剰余金合計	8,877,426	8,845,213
自己株式	305,952	306,009
株主資本合計	9,621,248	9,588,979
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	234,789	512,037
評価・換算差額等合計	234,789	512,037
純資産合計	9,856,037	10,101,017
負債純資産合計	27,258,103	27,531,764

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当事業年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
売上高	27,934,478	28,148,370
売上原価	18,268,416	18,051,941
売上総利益	9,666,061	10,096,429
販売費及び一般管理費		
販売促進費	5,251,603	5,162,228
発送費	962,308	1,005,363
貸倒引当金繰入額	200	200
賞与引当金繰入額	76,301	75,822
役員賞与引当金繰入額	4,850	8,440
役員退職慰労引当金繰入額	4,200	4,100
減価償却費	35,542	45,601
その他	2,747,441	2,855,163
販売費及び一般管理費合計	9,082,447	9,156,919
営業利益	583,614	939,509
営業外収益		
受取利息	602	1,887
受取配当金	10,448	10,444
受取賃貸料	159,977	200,607
受取手数料	21,019	56,005
副産物収入	52,564	53,234
電力販売収益	56,487	53,449
その他	66,818	39,402
営業外収益合計	367,919	415,031
営業外費用		
支払利息	181,210	174,022
賃貸費用	93,463	130,187
電力販売費用	45,399	43,325
その他	42,296	66,186
営業外費用合計	362,370	413,722
経常利益	589,163	940,818
特別利益		
固定資産売却益	49	20,722
特別利益合計	49	20,722
特別損失		
減損損失	53,845	-
投資有価証券評価損	53,088	-
訴訟関連損失	-	1 896,978
特別損失合計	106,933	896,978
税引前当期純利益	482,279	64,563
法人税、住民税及び事業税	25,000	12,708
法人税等調整額	197,880	26,414
法人税等合計	222,880	39,122
当期純利益	259,399	25,440

## 【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)		当事業年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		11,790,801	63.8	11,097,109	61.6
労務費		3,213,640	17.4	3,370,125	18.7
経費		3,463,540	18.8	3,540,678	19.7
当期総製造費用		18,467,982	100.0	18,007,913	100.0
期首仕掛品たな卸高		299,978		332,898	
合計		18,767,960		18,340,811	
期末仕掛品たな卸高		332,898		235,288	
当期製品製造原価		18,435,062		18,105,523	

(注) 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)		当事業年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)	
	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
減価償却費(千円)	1,002,707		932,514	
電力費(千円)	629,893		726,066	
ガス料(千円)	576,493		617,240	
消耗品費(千円)	579,461		570,800	
修繕費(千円)	249,638		268,244	

(原価計算の方法)

当社の原価計算は、標準原価に基づく組別工程別総合原価計算であり、原価差額は期末において売上原価、製品及び仕掛品等に配賦しております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
				特別償却 準備金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	543,775	506,000	506,000	135,943	19,050	8,300,000	220,686	8,675,680
当期変動額								
剰余金の配当							57,653	57,653
特別償却準備金の取崩					4,672		4,672	
特別償却準備金の積立					244,820		244,820	
当期純利益							259,399	259,399
自己株式の取得								
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)								
当期変動額合計					240,147		38,402	201,745
当期末残高	543,775	506,000	506,000	135,943	259,197	8,300,000	182,284	8,877,426

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	305,685	9,419,769	246,416	246,416	9,666,186
当期変動額					
剰余金の配当		57,653			57,653
特別償却準備金の取崩					
特別償却準備金の積立					
当期純利益		259,399			259,399
自己株式の取得	266	266			266
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			11,627	11,627	11,627
当期変動額合計	266	201,478	11,627	11,627	189,851
当期末残高	305,952	9,621,248	234,789	234,789	9,856,037

当事業年度(自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
				特別償却 準備金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	543,775	506,000	506,000	135,943	259,197	8,300,000	182,284	8,877,426
当期変動額								
剰余金の配当							57,652	57,652
特別償却準備金の取崩					39,801		39,801	-
特別償却準備金の積立					20,324		20,324	-
当期純利益							25,440	25,440
自己株式の取得								-
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)								-
当期変動額合計	-	-	-	-	19,476	-	12,735	32,212
当期末残高	543,775	506,000	506,000	135,943	239,720	8,300,000	169,549	8,845,213

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	305,952	9,621,248	234,789	234,789	9,856,037
当期変動額					
剰余金の配当		57,652		-	57,652
特別償却準備金の取崩		-		-	-
特別償却準備金の積立		-		-	-
当期純利益		25,440		-	25,440
自己株式の取得	57	57		-	57
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)		-	277,248	277,248	277,248
当期変動額合計	57	32,269	277,248	277,248	244,979
当期末残高	306,009	9,588,979	512,037	512,037	10,101,017

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

#### イ 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

#### ロ 時価のないもの

移動平均法による原価法

#### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品・仕掛品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

原材料

月次総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

### 2 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15～38年

機械及び装置 10年

#### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引にかかるリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

#### (4) 投資不動産

定率法(ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 10～34年

### 3 繰延資産の処理方法

社債発行費

社債の償還までの期間にわたり定額により償却しております。

### 4 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額を基準として計上しております。

#### (3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額を計上しております。

#### (4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

#### 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

#### (5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払いに備えるため、役員退職慰労金規程(内規)に基づく期末要支給額を計上しております。

### 5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### (1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

#### (2) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

#### (会計方針の変更)

##### (退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計適用指針第25号 平成27年3月26日)を当事業年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準に変更、割引率の決定方法を従業員の残存勤務期間に近似した年数を基礎として割引率を決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な扱いに従って、当事業年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更を行っておりますが、期首利益剰余金に加減する影響額はありません。

この結果、当事業年度の財務諸表への影響額はありません。

#### (表示方法の変更)

##### (損益計算書)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しておりました「受取手数料」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より区分掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書の「営業外収益」の「その他」に含めていた21,019千円は、「受取手数料」として組替えております。

##### (単体簡素化に伴う財務諸表等規則第127条の適用および注記の免除等に係る表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第8条の28に定める資産除去債務に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第26条に定める減価償却累計額の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第80条に定めるたな卸資産の帳簿価額の切り下げに関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第86条に定める研究開発費の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の3の2に定める減損損失に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産及び担保に係る債務

工場財団

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
建物	1,953,684千円	1,861,531千円
構築物	177,276千円	155,061千円
機械及び装置	3,366,305千円	3,152,834千円
工具、器具及び備品	18,198千円	22,167千円
土地	967,903千円	967,903千円
計	6,483,367千円	6,159,498千円

その他

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
建物	82,269千円	285,792千円
構築物	3,254千円	2,561千円
機械及び装置	3,525千円	2,853千円
工具、器具及び備品	11,521千円	30,401千円
土地	636,226千円	811,861千円
投資不動産	1,079,715千円	1,839,842千円
計	1,816,512千円	2,973,313千円

上記に対応する債務

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
短期借入金	4,985,592千円	2,702,526千円
1年内返済予定の長期借入金	606,104千円	807,175千円
長期借入金	1,944,214千円	3,717,220千円
計	7,535,910千円	7,226,921千円

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
短期金銭債権		3,873千円
短期金銭債務		400,000千円

3 保証債務

他の会社の金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っております。

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
(株)きむら食品		320,000千円

4 偶発債務

仕入取引の担保として差し入れた振出手形は、前事業年度及び当事業年度ともに101,000千円であります。

(損益計算書関係)

- 1 訴訟関連損失は、越後製菓株式会社との訴訟の判決確定に伴う損失であります。

(追加情報)

訴訟の解決

連結財務諸表の注記事項「連結損益計算書関係 追加情報 訴訟の解決」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

(有価証券関係)

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は1,200,000千円)は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

(税効果会計関係)

- 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	99,455千円	92,311千円
未払事業税	5,077千円	3,159千円
未払社会保険料	14,299千円	13,339千円
退職給付引当金	138,237千円	117,855千円
役員退職慰労引当金	24,045千円	22,025千円
投資有価証券評価損	62,287千円	56,640千円
会員権評価損	16,880千円	15,350千円
貸倒引当金	10,318千円	9,440千円
減損損失	89,169千円	59,518千円
資産除去債務	18,880千円	24,702千円
繰越欠損金	71,493千円	40,923千円
その他	22,317千円	23,308千円
繰延税金資産小計	572,462千円	478,576千円
評価性引当額	207,131千円	166,988千円
繰延税金資産合計	365,330千円	311,587千円
(繰延税金負債)		
未収還付事業税		144千円
資産除去債務に対応する費用	1,281千円	1,240千円
特別償却準備金	141,416千円	113,984千円
その他有価証券評価差額金	91,789千円	209,321千円
繰延税金負債合計	234,488千円	324,690千円
繰延税金資産(負債)の純額	130,842千円	13,103千円

- 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
法定実効税率	37.7 %	35.3 %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.5 %	29.2 %
住民税均等割額	1.0 %	7.5 %
評価性引当額	0.7 %	36.4 %
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	2.8 %	24.2 %
その他	0.5 %	0.8 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	46.2 %	60.6 %

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する法律」が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成27年5月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前事業年度の35.3%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年5月1日から平成28年4月30日までのものは32.8%、平成28年5月1日以降のものについては32.1%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)が5,247千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が15,619千円、その他有価証券評価差額金が20,866千円それぞれ増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	当期末減価 償却累計額 又は 償却累計額	当期償却額	差引当期末 残高
有形 固定 資産	建物	7,624,117	250,515	20,988	7,853,645	5,688,437	140,479	2,165,207
	構築物	931,041			931,041	773,211	22,999	157,829
	機械及び装置	18,944,391	557,532	289,692	19,212,230	16,056,543	755,790	3,155,687
	車両運搬具	172,127	4,140	1,840	174,428	155,877	12,300	18,551
	工具、器具及び 備品	813,881	61,304	7,501	867,684	810,616	40,217	57,067
	土地	1,935,181	175,634		2,110,816			2,110,816
	リース資産	455,138	5,472	13,176	447,433	80,730	46,896	366,703
	建設仮勘定	11,871	2,140,433	2,144,662	7,642			7,642
	計	30,887,751	3,195,032	2,477,861	31,604,922	23,565,416	1,018,683	8,039,506
無形 固定 資産	借地権				243			243
	ソフトウェア						1,416	
	リース資産				11,235	1,987	1,987	9,247
	電話加入権				8,887			8,887
	計				20,365	1,987	3,404	18,378
投資 その 他の 資産	長期前払費用	4,601		2,522	2,078	1,087	691	991
	投資不動産	2,770,285	787,009	120,105	3,437,189	805,770	30,217	2,631,418
	計	2,774,886	787,009	122,628	3,439,268	806,857	30,909	2,632,410

(注) 1 当期増加額のうち、主なものは次のとおりであります。

建物	東京支店	サトウ食品東京ビル(東京都大田区大森)	218,376千円
機械及び装置	新発田工場	包装餅製造設備	250,189千円
	佐賀工場	包装餅等製造設備	119,789千円
	北海道工場	包装餅及び包装米飯製造設備	97,995千円
	東港工場	包装米飯製造設備	88,900千円
土地	東京支店	サトウ食品東京ビル(東京都大田区大森)	175,634千円
投資不動産	賃貸用資産	サトウ食品東京ビル(東京都大田区大森)	781,824千円

2 当期減少額のうち、主なものは機械及び装置であります。これは、包装餅及び包装米飯製造設備の更新等による入替によるものであります。

3 無形固定資産の金額が資産総額の1%以下であるため、「当期首残高」「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

4 「当期首残高」及び「当期末残高」は、取得価額により記載しております。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	29,230	29,410	29,230	29,410
賞与引当金	281,742	282,186	281,742	282,186
役員賞与引当金	4,850	8,440	4,850	8,440
役員退職慰労引当金	68,116	4,100	3,600	68,616

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	5月1日から4月30日まで								
定時株主総会	7月中								
基準日	4月30日								
剰余金の配当の基準日	10月31日、4月30日								
1単元の株式数	100株								
単元未満株式の買取り									
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部								
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社								
取次所									
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額								
公告掲載方法	電子公告( <a href="http://www.satosyokuhin.co.jp/">http://www.satosyokuhin.co.jp/</a> ) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載しておこないます。								
株主に対する特典	毎年10月31日現在の株主名簿に記載された、100株以上を保有される株主の皆様に対して、下記の贈呈基準をもとに当社製品の詰め合わせを贈呈いたします。 贈呈基準 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>100株以上 1,000株未満</td> <td>1,000円相当の製品詰め合わせ</td> </tr> <tr> <td>1,000株以上 3,000株未満</td> <td>3,000円相当の製品詰め合わせ</td> </tr> <tr> <td>3,000株以上 5,000株未満</td> <td>5,000円相当の製品詰め合わせ</td> </tr> <tr> <td>5,000株以上</td> <td>7,000円相当の製品詰め合わせ</td> </tr> </table>	100株以上 1,000株未満	1,000円相当の製品詰め合わせ	1,000株以上 3,000株未満	3,000円相当の製品詰め合わせ	3,000株以上 5,000株未満	5,000円相当の製品詰め合わせ	5,000株以上	7,000円相当の製品詰め合わせ
100株以上 1,000株未満	1,000円相当の製品詰め合わせ								
1,000株以上 3,000株未満	3,000円相当の製品詰め合わせ								
3,000株以上 5,000株未満	5,000円相当の製品詰め合わせ								
5,000株以上	7,000円相当の製品詰め合わせ								

(注)当社定款の定めにより、当社の株主は、その有する単元未満株式について、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第54期(自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)平成26年 7月25日関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第54期(自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)平成26年 7月25日関東財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書及び確認書

第55期第 1 四半期(自 平成26年 5月 1日 至 平成26年 7月31日)平成26年 9月12日関東財務局長に提出。

第55期第 2 四半期(自 平成26年 8月 1日 至 平成26年10月31日)平成26年12月15日関東財務局長に提出。

第55期第 3 四半期(自 平成26年11月 1日 至 平成27年 1月31日)平成27年 3月17日関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

平成26年 7月28日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2 項第 9 号の 2 (株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書であります。

平成27年 4月27日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2 項第 6 号(訴訟の解決)の規定に基づく臨時報告書であります。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成27年 7月10日

佐藤食品工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 五十幡 理一郎

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 若松 大輔

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている佐藤食品工業株式会社の平成26年5月1日から平成27年4月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、佐藤食品工業株式会社及び連結子会社の平成27年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、佐藤食品工業株式会社の平成27年4月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、佐藤食品工業株式会社が平成27年4月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成27年 7月10日

佐藤食品工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 五十幡 理一郎

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 若松 大輔

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている佐藤食品工業株式会社の平成26年5月1日から平成27年4月30日までの第55期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、佐藤食品工業株式会社の平成27年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。